

議員派遣結果報告書

1	名 称	第51回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
2	場 所	鳥取県立生涯学習センター、鳥取市人権交流センター
3	期 間	令和8年8月4日（火） 1日間
4	内容・成果	<p>基調提案</p> <p>本研究集会は差別をなくすために、1974年の「第1回部落解放鳥取県研修会」を開催してから51回目を数える。現在は「人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会」と名称を変えて受け継がれている。</p> <p>1945年国際連合が設立され、1948年世界人権宣言が採択され自由と平等の精神が確立した。しかし、国際連合設立から80年経過した現在も世界各地で戦争・紛争が起きている。また、経済のグローバル化の進行とともに、経済至上主義と競争原理の考え方による貧富の格差が広がっている。そのような中、移民・難民を敵視し自国第一主義の勢力が世界各地で拡がり人権を無視する事態が生じてきている。</p> <p>2015年、国連は環境・経済・社会の諸問題に取り組むSDGs（持続可能な開発目標）を採択した。これには「持続可能な社会」と「誰一人取り残さない社会」の実現が示されている。この視点は、人権教育の視点と重なる。</p> <p>1966年「国際人権規約」が国連で採択され、1979年に日本は批准している。さらに人権関係諸条約が採択され、日本も人種差別撤廃、女子差別撤廃、児童の権利、障害者の権利などに関する条約等を批准している。</p> <p>わが国固有の部落問題については、「同和対策事業特別措置法」の取り組みにより、2002年の「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」終了までの33年間にわたり、特別対策が実施されてきた。</p> <p>文部科学省は2016年「学校教育における人権教育調査研究協力者会議」を設置し、2025年「人権教育・啓発に関する基本計画」を策定して、改めて学校園における人権教育の必要性が示された。しかし、これで差別がなくなったわけではない。人権尊重社会を実現するためにはあらゆる場で、実態を把握することが重要である。</p> <p>講演</p>

		<p>「認知症になってからも自分らしく！」</p> <p>講師 藤田和子</p> <p>認知症の人にも人権はあり、尊厳を守らなければならない。認知症の人が社会に参加できるようにする。</p> <p>認知症の人がとるべき行動</p> <p>①自分の状態を知る 早めの受診</p> <p>②向き合う 自覚する・できにくくなったことへの対処法を考える</p> <p>③伝える 身近な人に自分の病気のことを伝える・自分の思いを伝える</p> <p>④対応力をつける 諦めずチャレンジし続けると、状態に慣れてくる →進行が緩やかになっている</p> <p>⑤人を信じる 人間関係を構築することが難しくなっていく時、勘違いや被害妄想が起きる</p> <p>⑥社会参加 家族、地域でやれること 何もしないということが一番よくない</p> <p>⑦パートナーを見つける 自分の目的を伝え、目的に向かって対話を重ねる 必要なサポートを依頼する</p> <p>⑧共生社会 すべての人が互いの人格と個性を尊重し支え合う</p> <p>2018年これらのことをまとめた、認知症とともに生きる希望宣言を展開する。これは認知症になった人の体験と意思を言葉にしてできたものである。</p> <p>令和6年共生社会の実現を推進するための認知症基本法施行。</p> <p>これは本人の意見が取り入れられていなければ、ただの認知症基本法になっていた。</p> <p>同年認知症施策推進基本計画策定。</p> <p>令和7年鳥取市認知症施策推進計画策定。</p> <p>基本法により労働条件の改正などが進み、働ける環境が整いつつある。認知症の理解が進むことにより、共生社会が実現できる。</p> <p>分散会 就学前・教育の創造</p> <p>1 「自分で選んで、自分で決める」 子どもの人権が確保される環境づくりをする。 保護者会から子供の問題が解決されることがある。</p>
--	--	--

		<p>行事は子供の意見を尊重して決める。子供からの案がない時、先生が提案するようにする。</p> <p>2 「すべての人に幸せな子供時代を」</p> <p>子供には休み、遊ぶ権利がある。</p> <p>子供が安心して過ごせるようにする方法に、脳バランスを整える療養整体的からだアプローチという手法がある。小学生では時間がかかるのでこども園からがよい。乳幼児はもっと効果がある。</p> <p>発達障害とは神経未発達状態である。</p>
--	--	---

提出期限 令和8年8月18日（火）まで